

大正・昭和の音とデザイン

—レコードにおける宣伝と販売とは!?!—

2025年7月21日(月・祝) 13:00～

Sレコードの「顔」といわれるもののひとつにレコード袋(スリーブ)があります。紙製で劣化や散逸のため、これまであまり研究対象とされてこなかった資料ですが、まとまったコレクションの発見をきっかけに、レコード会社ごとの特徴や時代を象徴した意匠など、たいへん興味深い事柄が明らかとなりました。

昨年度は関西・名古屋のレコード会社に焦点をあてましたが、今年度は東京のレコード会社を中心に、デザインの変遷や宣伝・販売のための工夫など幅広い話題を扱います。またスリーブや販売促進グッズのミニ展示コーナーを設けるほか、蓄音機でのレコード再生も行います。

《プログラム》

I. スリーブ資料の紹介—整理と分類からみえてきたもの—

大久保真利子 (九州大学総合研究博物館 専門研究員)

II. 大仏とビリケン—レコード会社の商標とキャラクターをめぐる—

京谷啓徳 (学習院大学文学部 教授)

III. 富士山印・東京蓄音器の演劇レコード

大西秀紀 (京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 客員研究員)

IV. 関東の地域レーベルが記録したもの—演芸レコードを例として—

毛利真人 (京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 客員研究員・音楽評論家)

V. レコード今昔物語

八日市屋典之 (金沢蓄音器館 館長)

会 場 | 京都市立芸術大学 伝音セミナールーム

参 加 費 | 無料・要事前申込

定 員 | 会場50名 オンライン50名※Zoom配信

申込方法 | 右記QRコードより専用フォームにて先着受付

受付期間 | 7月18日(金)まで ※定員にて締切とさせていただきます。



主催 | 歴史的音源所蔵機関ネットワーク(レキレコ)

共催 | 東洋音楽学会西日本支部 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター

協力 | 金沢蓄音器館 九州大学総合研究博物館

後援 | 公益財団法人サントリー文化財団

〈お問合せ先〉 歴史的音源所蔵機関ネットワーク事務局
rekireco@gmail.com

